

# 株主通信

第139期第1四半期報告  
平成18年4月1日～平成18年6月30日

1st Quarter Business Report



証券コード：9107



# c o n t e n t s

2 株主の皆さまへ

3 **特集**

## 新中期経営計画

### “ K ”LINE Vision 2008<sup>+</sup>

5 **TOPICS**

安全運航を支える船舶管理体制

定時株主総会を開催

<大規模買付行為への対応方針(買収防衛策)を導入!>

7 **営業の概況**

業績概況・事業別概況

11 **News Flash**

社会・環境委員会及びCSR専門委員会を設置

米国ロングビーチ港の「グリーンフラッグ」表彰で特別賞賛を受ける

日本経団連日中環境植林プロジェクトに参加

米国コンテナ・ターミナルでの排気ガス抑制に取り組む

14 **アンケート**

株主の皆さまへアンケートのお願い

**PRの頁**

9 “ K ”Line(Japan)Ltd.

10 川崎近海汽船株式会社

13 ケイライントラベル株式会社

## 株主の皆さまへ



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第1四半期のご報告をお届けするにあたって、ひとことご挨拶申し上げます。

当第1四半期（平成18年4月1日から6月30日）は、不定期船やコンテナ船の一部航路で運賃市況の軟化が見られましたが、タンカーなどその他の事業分野の市況は総じて堅調に推移しました。当社グループは経営計画“K”LINE Vision 2008+に基づき、積極的な営業を展開し、事業規模の拡大に取り組んだ結果、連結売上高2,522億円と、前年同期に比べ、約300億円の増収となりましたが、燃料油価格の歴史的な高騰などの影響を受け、営業利益は100億円、経常利益は101億円と、前年同期に比べ、それぞれ140億円の減益、期初の予想に比べましても、経常利益で44億円の減益となりました。

第2四半期についても当初予想を下回る見込みでございますが、下期につきましては、自動車船の好調な荷況やタンカーやドライバルクの堅調な市況に支えられ、当初予想通りの業績を上げられる見込みです。

配当金につきましては、現時点では、当初予定通り、中間配当金及び期末配当金それぞれ1株当たり9円、年間配当金18円とさせていただきます。

グループ企業の役員・従業員一同、“K”LINE Vision 2008+の推進に一丸となって努力を続けておりますので、なにとぞ一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年8月

代表取締役  
社長執行役員

前川 弘幸

# 特集

## 新中期経営計画“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>

中期経営計画“K”LINE Vision 2008の見直しを行い、新たに“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>（プラス）を策定しました。2008年度までの事業計画と、2010年代半ばの当社グループの「あるべき姿」を掲げ、その実現に向けて当社は新たなスタートを切りました。

### “K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>の背景

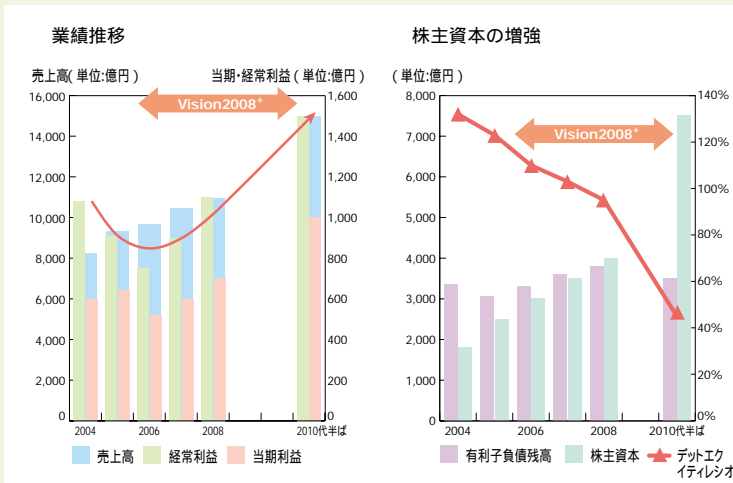
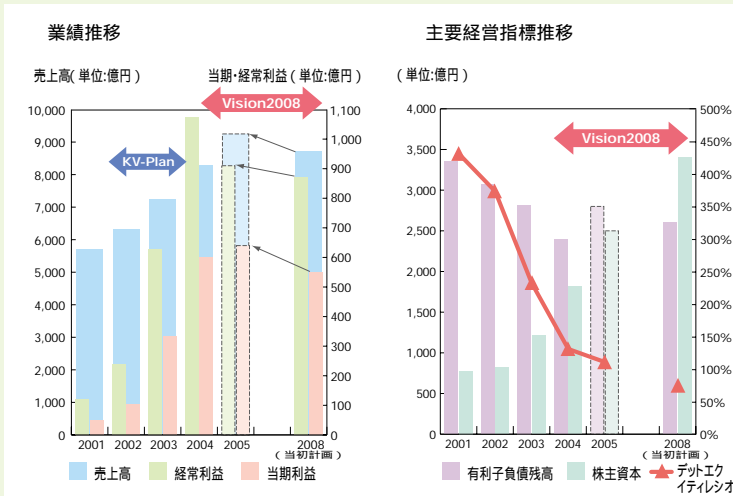
2004年4月に経営計画“K”LINE Vision 2008を策定しましたが、2004年度及び2005年度の業績は、計画最終年度である2008年度の目標を概ね達成することができました。この間、世界経済は中国を中心に大きな構造転換を遂げ、持続的な成長過程にあり、他方、燃料油価格が大幅に高騰し収支を圧迫するなど、海運を取り巻く事業環境は2年前の想定から大きく変化してきました。

また、2008年、2009年までの船隊整備計画もほぼ確定するに至りました。このような状況において、2010年代半ばを見据えた一段と高い目標を目指すためのナビゲーターとして、本年3月新たに“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>（プラス）を策定しました。

### “K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>の数値目標と長期ビジョン

世界の海上荷動きは今後も持続的に増加していくものと考えられます。当社は大きな変貌を遂げつつある海運市場において、競争力のある船隊を整備し、質の高いサービスを提供し、事業規模の拡大と収益向上を図ります。計画最終年度2008年には、運航隻数500隻体制のもと、売上高1兆1,000億円、経常利益1,100億円、当期純利益700億円を目指します。配当金については、配当性向の目標を連結純利益の2割に引き上げ、この割合を今後さらに高めていき、株主の皆さまへの利益の還元に最大限努めます。

また、2010年代半ばには運航隻数700隻により、売上高1兆5,000億円、経常利益1,500億円、当期純利益1,000億円を目指します。



## 事業規模の計画的拡大を支えるための取り組み

持続的に成長し、安定収益体制を確保するために、事業規模を拡大し、規模のメリットと単位当たりコスト低減を最大限に追求します。船舶投資は2009年度まではほぼ固まっており、今後はそれ以降の2010年代半ばを視野に入れた長期的な視点で投資計画に取り組みます。

### 【安全運航を支える船舶管理体制】

2008年度における運航隻数が500隻に拡大し、さらに700隻へと拡大していくことから、その安全運航を支える船舶管理体制の強化が今まで以上に重要となります。世界規模での海事技術者の育成に取り組みます（5頁のTOPICSをご参照下さい）。

### 【機動力のある意思決定のための制度・機関の構築】

事業の基軸が日本からグローバルへと展開していく中で、最適最強の経営組織の構築と機動力のある意思決定のための制度・機関の構築という観点から、海外拠点への権限委譲を進めます。また既に、意思決定の迅速化のため取締役の少数化を行い、執行の強化と責任体制の明確化のため執行役員制度の導入を実施済みであり、今後さらにリスク管理体制の構築に取り組んでいきます。

## 事業環境の変化への対応

### 【企業の社会的責任（CSR）環境対策】

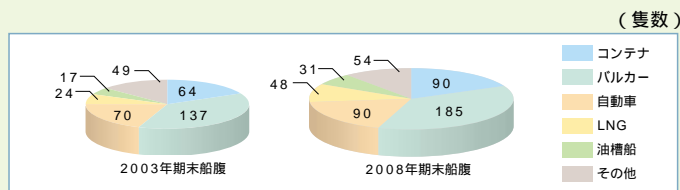
従来の「環境委員会」を、社長を委員長とする「社会・環境委員会」へと改組しました。各ステークホルダーとの良好な関係のため、企業グループとして行動計画を共有し、CSR活動を推進します。

### 【コスト構造改革】

高騰した燃料油価格に対する対策等、構造的なコスト改革がさらに求められており、現場を主体とするコスト管理を全費目にわたり徹底していきます。特に、省エネルギー対策については、構造的な見直しを進めていきます。

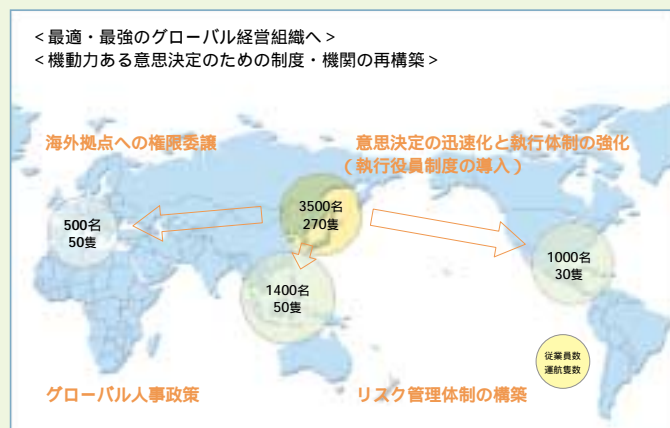
### 【リスク管理】

予期せぬリスクによって、大きく変化する事業環境に対応するため、危機管理委員会を設置し、その下部組織とともにリスク・マネジメントの強化を図っています。また「K」LINE Vision 2008<sup>+</sup>では、事業グローバル化推進に伴うリスク管理体制の強化にも取り組んでいきます。



(船舶投資) (隻数)

船種	2004-5年	2006年	2007年	2008年	合計
コンテナ	11	6	3	6	26
バルカー	29	28	11	14	82
自動車	15	8	5	6	34
LNG	6	2	3	13	24
油槽船	3	4	4	3	14
その他	3	5	2	1	11
計	67	53	28	43	191

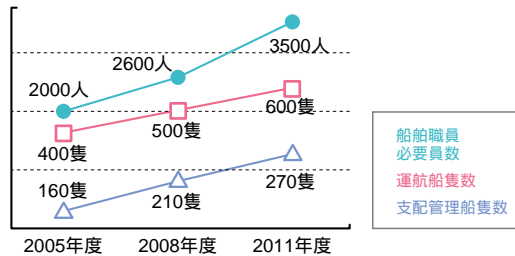


# TOPICS

## 安全運航を支える船舶管理体制

安全運航を支える船舶管理体制をより一層確立するためグループ船舶管理会社のグローバル展開と競争力強化を図り、グローバルな規模での海事技術者の確保と育成に努めます。管理会社で蓄積したノウハウを安全運航の根幹と位置付け、一層の維持・強化を図ります。各管理会社は、船種に特化した船舶管理を行い、専門性を高めていきます。

運航船隻数、支配管理船隻数と船舶職員必要員数の推移



また支配船の品質管理のためには、乗組員の質と管理会社で支援を行う監督の高い技量と信念(“K”LINE SPIRIT)が重要と考え、グローバル教育方針の策定、教育研修プログラムや

船舶管理のための高い理念(“K”LINE SPIRIT)

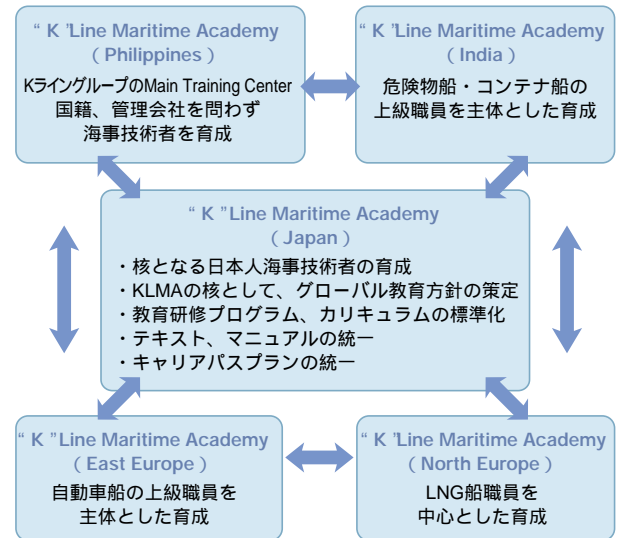
船舶管理のための“K”LINE SPIRITとは

- SKILL : 経験に根付いた技術力
- PROFESSIONALISM : 船の個性を熟知した専門性
- INTELLIGENCE : 社会貢献への知性、知識
- RESPONSIBILITY : 強い責任感
- INNOVATION : 新しい技術の導入
- TEAMWORK : 目標達成に向けたチームワーク

カリキュラムの標準化などを含む総合的概念ケイライン・マリタイム・アカデミーのもと、海事技術者をグローバル規模で確保育成し、高いレベルでの標準化を図ります。

世界各地の研修拠点をネットワーク化し、世界規模で海事技術者を育成していきます。

ケイライン・マリタイム・アカデミー概念図



また、外部の船員教育機関と連携して、海事技術者の確保とグレードアップを図るとともに、優秀な船舶職員の早期養成と、長期持続的安定確保を目的として教育訓練船を整備します。海事技術者の確保育成のために、世界各地のマンニング会社との連携も強化します。

## 定時株主総会を開催



本年6月26日に、当社第138期定時株主総会を開催しました。

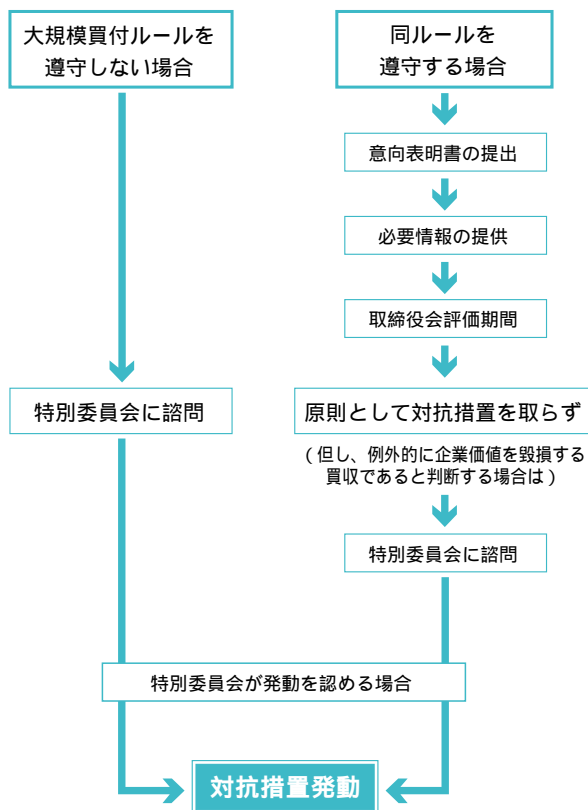
雨模様の天候にもかかわらず、昨年に比べ118名も多い297名の株主の皆様のご参加を頂きました。前川社長が議長を務め、ビジュアル・ツールも用いて営業報告及び財務諸表などの説明を行なった後、活発な質疑応答が行われ、最後に各議案をご審議頂きました。株主の皆様から多くの真摯で貴重な御意見を頂き、大変有意義な株主総会となりました。



### <大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）を導入！>

「大規模買付行為に対する対応方針（買収防衛策）」が、定時株主総会において可決されました。これは、企業価値・株主共同の利益に資さない大規模買付行為に対する対応方針を定めるもので、その発動フローは概略下記の通りです。

#### 大規模買付ルールの設定・公表



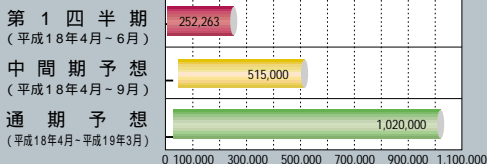
（例：株主への新株予約権無償割当など）

# 営業の概況

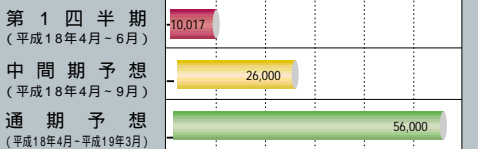
## 業績概況

(単位：百万円。単位未満切捨て)

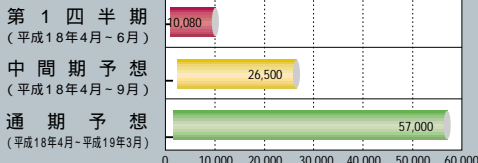
### 売上高



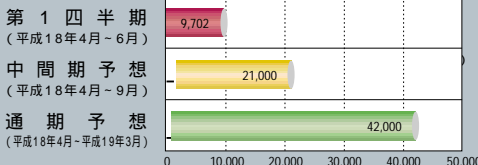
### 営業利益



### 経常利益

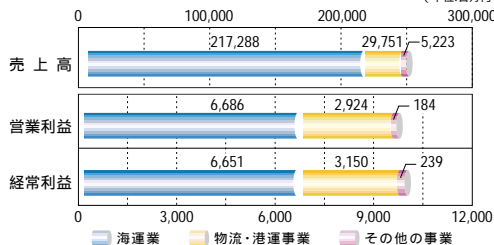


### 純利益



### 第1四半期 事業の種類別セグメント情報

(単位：百万円)



当第1四半期において、わが国経済は好調な企業収益を背景に着実な回復を続けました。海外においても米国やアジア諸国の景気が概ね順調に推移しました。

海運業においては、不定期船やコンテナ船の一部航路で運賃市況の軟化が見られましたが、タンカーなどその他の事業分野の市況は総じて堅調に推移しました。

当社グループは、経営計画「K」LINE Vision 2008+の方針に基づき、積極的な営業を展開し、事業規模の拡大に取り組み増収を確保しましたが、燃料油価格の歴史的な高騰の影響を大きく受け減益となりました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりです。

## 事業別概況

### 海運業

#### コンテナ船部門

北米航路では米国経済が依然好調を維持する中、当社においては北西岸航路で5500TEU型新造大型船が就航、東岸航路でも引き続き旺盛な荷動きに支えられ、積高は前年同期比約9%増となりました。欧州航路も中国出しを中心に荷動きは好調に推移し、アジア航路の荷動きも好調な域内経済に支えられ堅調に推移しました。南北航路強化の第一弾として4月より改編した南米西岸航路では積高が倍増するなど、全体では前年同期比8%の積高増加となりましたが、欧州航路等での運賃の値崩れと燃料費ほか運航コストの上昇に、収支は圧迫を受ける結果となりました。





## 海 運 業

### 不定期専用船部門

ドライバルク輸送については、大型船市況は底堅く推移し、中小型船市況もセメント、鋼材、中国国内の石炭輸送等により需要が旺盛で、強含みで推移しました。電力炭輸送も船腹需給がほぼ均衡し安定した収益を上げることができました。

自動車船については、自動車販売が好調な北米向け輸送を筆頭に、日本・極東より各方面への海上輸送は堅調に推移し、輸送台数は前年同期比14%の増加となりました。



## 海 運 業

### 内航・フェリー部門

内航・フェリー部門では、日本経済の着実な回復の中で、内航専用船による安定した輸送量を確保しました。



## 海 運 業

### エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については、昨年度竣工した新造船の4隻を含め合計30隻の当社LNG船隊が順調に稼働し、引き続き安定的な収益を確保することができました。

油槽船については、アフラマックス型船市況が堅調に推移したこともあり、安定的な収益を確保することができました。



## 物 流 ・ 港 運 事 業

荷況が海上・航空共に比較的堅調に推移し、物流及び港湾関連事業会社の取扱貨物が増加しました。



〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目2-9 日比谷セントラルビルディング  
Phone (03)3595-5213 / Fax (03)3595-5259 / <http://www.klj.kline.com>  
名古屋支店 Phone (052)589-4512 / 関西支店 Phone (078)858-6501



日本のお客様のニーズを徹底追及—それが“K” Line (Japan) Ltd.のモットーです。

“K” Line (Japan) Ltd.は、お客様のニーズに呼応したきめ細かいサービスと安全輸送の提供はもちろん、地域密着型の物流コンサルタントとして、総合物流における新たなビジネスソリューションの提案に積極的に取り組んでおります。

# “K” Line in Japan

美しい日本の K Line Japan



**"K"LINE KINKAI**

**生乳製品をデイリー配送**

ほくれん丸・第二ほくれん丸 釧路⇌日立



ほくれん丸

**安心で快適な旅を提供します。**

シルバークイーン 苫小牧⇌八戸  
(旅客フェリー)



シルバークイーン



**"K"LINE KINKAI**

**川崎近海汽船株式會社**

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

# NEWS FLASH

## 企業の社会的責任

### 社会・環境委員会及び CSR専門委員会を設置

本年3月に策定した新中期経営計画“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>で当社は社会と調和し、持続的な成長を確保するため、CSR（企業の社会的責任）の実践を基本課題に据えています。本年1月には、CSR活動の推進事務局としてCSR推進室を設置、5月には従来の環境委員会を社会・環境委員会に改組し、その下にCSR及び環境の両専門委員会を置きました。

社会・環境委員会の委員長に就任した社長の直接の指揮の下、明確な責任体制により、当社グループの役員・従業員一人ひとりがCSRの基本精神に則って、安全輸送・環境保全を含む事業活動及び社会貢献活動を積極的に実践します。



\*当社のCSR活動につきましては、ホームページに社会・環境レポート2006を掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

### 米国ロングビーチ港の 「グリーンフラッグ」表彰で 特別賞賛を受ける



2006年（平成18年）3月、当社は、米国ロングビーチ港湾局より、「船舶からの排気ガス抑制を目的とした指定沿岸海域での減速航行運動において、2005年の一年間にわたり、非常に高い遵守率を取めた」ことにより、最も貢献度の高い船社6社のひとつに選ばれ、「グリーンフラッグ」表彰の名で特別賞賛を受けました。日本の海運会社としては唯一の受賞でした。

ロングビーチ港では沿岸の大気汚染が深刻化しており、同港に寄港する船舶に対して減速航行を求める運動を行っています。これは法的な強制力はありませんが、当社は26隻が100%減速遵守、全体でも94%の高遵守率を達成しました。

当社では独自の取り組みはもちろん、世界各地での環境保全への取り組みに積極的に参画し、今後も地球環境の保護に貢献するよう努めていきます。

## 日本経団連日中環境植林プロジェクトに参加

本年4月6日、日本経団連が中国側の中華全国青年連合会や重慶市と共催する「第2期日本経団連日中環境植林プロジェクト」が発足しましたが、当社は日本側窓口である日本経団連中国委員会に、植林活動の支援のため100万円を寄付しました。

当プロジェクトは生態環境の保護と洪水防止に努め、地域社会との共生を図る日中共同のモデル事業として、2006年～2008年の3年間で中国重慶市長寿区に位置する435ヘクタールの土地に桐、楠、ポプラ等を植林するものです。第1期は2001年～2005年の5年間で同地域の573ヘクタールで植林を完了していますので、本第2期プロジェクトが完了すると、植林は1,000ヘクタールに達する予定です。

当社グループの環境憲章の定め「環境保全に向けた社会貢献活動を支援し、それに参画します」に沿って実施された本プロジェクト参加は、新中期経営計画“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>の基本課題であるCSR（企業の社会的責任）の一翼を担っています。



## 米国コンテナ・ターミナルでの排気ガス抑制に取り組む

カリフォルニア州ロス・アンゼルス港、ロングビーチ港周辺では、船舶やコンテナターミナルから排出される排気ガスによる大気汚染が深刻な社会問題化しており、州及び港湾局は海運業界に対し排気ガス中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物、煤塵微粒子など有害物質の削減を求める法整備を進めています。

当社は法律の施行に先駆け、ロングビーチ港寄港船社として初めて、着岸・荷役中のコンテナ船の必要電力を船舶の発電機によらず陸上から供給を受ける設備を搭載することを決定し、順次船舶の改装工事を実施しています。この陸電供給システムをコールド・アイアニング（Cold Ironing）と呼びます。排気ガス削減量は年間でSOx 80トン、NOx 120トン、温室効果ガス（CO<sub>2</sub>）4,000トンと試算しています。



\*コールドアイアニングイメージ図



We promise your comfortable world trip. ✈

# ケイライントラベル株式会社

- 全世界への出張をトータルにバックアップ
- 日本でシェアトップクラスのキルトツアー
- ホームステイや世界のイベントへの渡航手配

## Business Trip Consulting

◆ビジネストラベル・出張関連  
業務をトータルにサポート

- ◆キルトツアー
- ◆中国ビジネスツアー
- ◆広告業界関連ツアー
- ◆ホームステイ

## Group Tour etc.

## System Solution

◆ビジネストラベル/  
システムソリューション



**K "K" LINE TRAVEL**  
ケイライントラベル株式会社

本社・東京 旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F TEL:03-3506-3466  
神戸営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F TEL:078-391-1701  
大阪営業所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F TEL:06-6443-8777  
岐阜営業所 〒509-0147 岐阜県各務原市鶯沼川崎町2丁目58番地 カワサキライフ岐阜第二ビル TEL:058-382-4571

<http://www.klinetravel.co.jp/> <http://www.quilters-shop.com>

## 株主の皆さまへアンケートのお願い

当社では、株主の皆さまへの情報開示に努め、当社の経営をより一層ご理解いただけるIR活動を行っていきたくと考えています。

つきましては、アンケートを実施させていただきたく、大変お手数ではございますが、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

(アンケート実施期間：平成18年9月30日まで)

回答は以下のいずれかの方法をお選びください。

### ハガキの場合

… 右のハガキにご記入のうえ、ご返送ください。

### インターネットの場合

… 下記URLにアクセスいただき、ご回答ください。

URL：[www.kvoice.jp](http://www.kvoice.jp)

アクセスナンバー：  
お送りした株主通信を  
ご覧ください。

このプレゼントは株主さまを対象としており、PDFファイルをご覧の方は対象外となります。

インターネットによるアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン (IR活動支援会社)が運営するWebアンケートシステム「Kvoice」を利用しています。



アンケートに関する  
お問い合わせ先：  
[inquiry@kvoice.jp](mailto:inquiry@kvoice.jp)

## 回答者へプレゼント！

アンケートにご回答頂いた方の中から抽選で5,000名様に、当社より**カレンダー**をお送りいたします。

また、インターネットからご回答された方にはさらに、3人に1人の確率で500円の**クオカード**が当たるチャンスがあります。  
ぜひアンケートにご協力ください。

質問6. 今回の株主通信で興味深かった記事をお選びください。  
(2つまでお選びください)

株主の皆さまへ 特集「新中期経営計画“K”LINE Vision 2008<sup>+</sup>」  
TOPICS 営業の概況 News Flash PRのページ  
答( ) ( ) ( )

質問7. 当社株式の購入のきっかけをお聞かせください。  
(3つまでお選びください)

証券会社で勧められて 新聞などで海運業界の記事を読んで  
会社四季報を読んで 投資関連の雑誌の情報をもとに  
インターネット上の掲示板やブログの情報をもとに  
アナリストレポートを参考にして 相続で譲り受けて  
従業員の持ち株会に加入して その他  
答( ) ( ) ( )

質問8. 当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

長期で保有したい 値上がり後に売却したい  
値下がり後に買い増したい 買い増ししたい  
短期で売り買いを繰り返したい 売却済み(売却予定) 未定  
答( )

質問9. 今年の株主総会では、株主議決権を行使されましたか？

書面で議決権を行使した インターネットで議決権を行使した  
行使しなかった  
答( )

質問10. 今後、株主通信で取り上げて欲しい内容や当社へのご意見を自由にお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。ご記入いただいた情報は、当社の今後のIR活動の参考とさせていただきます。以外には使用いたしません。

〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号  
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : http://www.kline.co.jp

郵便はがき

料金受取人払

東京中央局  
承認

2724

1 0 0 - 8 7 8 1

東京中央郵便局  
私書箱第1720号  
川崎汽船株式会社  
総務・法務グループ 行

差出有効期間  
平成20年8月  
31日まで  
(切手不要)



カレンダーを希望される方は、下記に送付先住所をご記入ください。  
(同封の個人情報保護シールで記入欄を覆ってご返信ください。)

フリガナ	
お名前	歳
ご住所	〒 - 都道府県

ご回答欄

質問1. 答 ( )
質問2. 答 ( )
質問3. 答 ( )
質問4. 答 (昭和・平成 年 月)
質問5. 答 ( 株 )

株主アンケートにご協力ください。  
ご回答いただいた方の中から抽選で5,000名様に  
カレンダーをプレゼントいたします。  
詳しくは中面をご覧ください。

以下について、該当する番号をハガキにご記入ください。

質問1：年齢をお選びください。

10代 20代 30代 40代 50代  
60代 70代以上

質問2：性別をお選びください。

男 女

質問3：職業をお選びください。

会社員、公務員 会社役員 自営業 専門職  
無職 主婦 学生 その他

質問4：当社株式の購入時期をお聞かせください。

質問5：当社株式の保有数をお聞かせください。

(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、  
リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、  
これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

